館報はた
スージーちゃん　スイカワくん

平成29年3月1日現在

世帯数	6,001戸
人口	15,702人
男	7,587人
女	8,115人

冬のスポーツを楽しもう

スキー・スノーボード教室＆トレッキングスノーシュー教室

毎年恒例となりました波田公民館・波田体育協会共催のスキー・スノーボード教室とトレッキングスノーシュー教室が、1月22日に乗鞍高原で行われました。

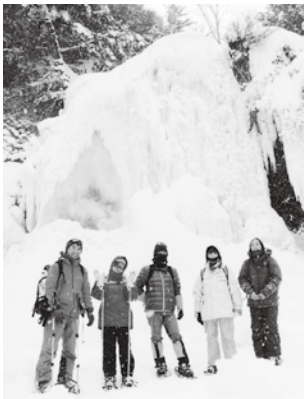
今年は、スキー・スノーボード17名、トレッキング5名の参加でした。

当日朝、波田公民館前を出発する時は曇りでしたが、乗鞍高原へ近づくにつれ降雪量が多くなり、結局、ほぼ一日雪の中の教室となりましたが、両教室とも全員が冬のスポーツを思いっきり満喫しました。

今回、私はトレッキングスノーシュー教室に参加しました。スノーシューとは、洋式の〝かんじき〟で、つま先だけ固定されているため、前進するのはとても楽ですが、反面バックができないのが特徴です。

教室ではまずインストラクターの指導の下、防寒靴にスノーシューを装着し、ストックを手にいざ雪の世界へ！

「こんなに急な下り坂、大丈夫？」と思うような斜面を駆け降りることができますし、ふわふわした新雪の上を進むと、まるで雲の上を歩くようですが、たまに「ズボッ」と足が埋まってしまいます。



午前中は、凍った牛留の池のど真中を歩いて渡り、昼食の後は、今回のメインの凍った善五郎の滝へと向かいました。

「今年は温度が低く、雨も降らなかったため、例年になく見事な滝ですよ」と説明を受け、目にした雄姿は素晴らしく、しかも滝つぼ付近まで行くことができました。

他にも動物の足跡を見つけたり、植物観察、新雪へダイブ、肥料袋でそり、だるまさんが転んだなどで子どもにかえったように遊びました。

自然が好きな方、家にこもっている方、冬の外にはこんな世界が広がっています。まずは来年参加してみてはいかがでしょうか。

17区町内公民館ボーリング大会

老いも若きも一緒に

2月19日（日）に、17区公民館のボーリング大会が開催されました。このボーリング大会は、今回で6回目の開催で、町内住民の親睦と冬場の運動不足解消の一助となればとの主旨で、行われるようになりました。

17区は戸数50数軒と波田地区の中では小さな区ではありますが、今年度の町内公民館対抗40歳以上ソフトボール大会で連覇したように、住民の絆が強い地区です。

当日は会場の都合で午後3時からの開始となりましたが、スタート1時間前から各々会場に集まりはじめ、80歳の高齢者から保育園入園前の幼児まで22名の参加があり、まさに老若男女が集いました。

1人2ゲームをプレイし、年齢や男女の関係のハンディキャップも無しで、白熱した大会となりました。優勝者は2ゲームトータル350点近いスコアーを出しました。子ども達もストライクやスペアを取ると大喜びして、楽しい一時を過ごしました。

終了後、地元赤松に戻り、そば店にてそば・うどんをメインとした食事会を行い、ゲーム中の話や地域の話題に花が咲きました。17区公民館行事や町会行事などで子ども達も人数は少ないですが、大人の顔を見てどこどこのおじちゃん・おじいちゃんと分かっているため、店内を走り回ったりしている姿を注意されたり、はたまた応援したりとこちらも楽しい時を過ごしました。

少子高齢化社会の中、小さな区ですが、公民館活動などを通して小さなつながりがさらに強くなり、また、支え合う地域を目指して、今後も活動していきたいと思います。

畑の彩り館 きろろ

リニューアルオープン

畑の彩り館きろろが、産地直売店としてリニューアルオープンしました。

名前は知っているけれど、まだ入ったことがないという人も多いのではないでしょうか。ＪＡのスーパーとして、以前は営業していたのですが、梓川高校前の道を線路を渡って入らなければならず、利用者が少なく閉店してしまいました。

しかし、平成27年春に、地元農家が生産物を売るファーマーズガーデンとして生まれ変わりました。ファーマーズガーデンは山形や内田などにもあり、特に山形店は交通の便も良く、アルウィンで試合があると、県外からの車が入りきれないほどです。それに比べ波田店は知名度も低く、まだまだこれからです。

店内には、波田の農家さんが作った新鮮で安い野菜が並びます。またお肉も近隣の畜産家のお肉を店舗内でスライスするので、味が違います。「0円食堂」で俳優の長瀬智也さんが訪れたこともあります。「やはり地元の子どもたちに食べてもらえると嬉しいです」（和合田美男さん）、と生産者の皆さんも地産地消に積極的です。農家の皆さんは、郷土に愛着と矜持を持って育てています。波田中学校の生徒さんの発表でも、波田の地域振興には農業の発展が欠かせないという意見が多くありました。

春先にはフキノトウや山菜などこの季節ならではの食材も並びます。おいしくてフレッシュな地元野菜をみんなで食べて、健康で元気な波田にしていきましょう。皆さんも、是非お気軽にお立ち寄りください。

波田地区の大切な水

私達は毎日水を飲んでいますが、当然のこととして何の疑問も感じていないでしょう。波田に住んでいると、波田の水は格別に美味いとか、水不足で断水になるとか考える人は、ほとんどいないと思います。それほど恵まれているのです。

こんな事例があります。夏休みに家族で横浜へ行った時、子ども達がいつまでも水道水を出しているのです。注意すると、冷たくならないし美味しくないとのことです。逆に東京から来るお客は、水道水が美味しい、お茶も一味違うとのことです。私達が当り前と思っている水が、実は大変な苦労をして今日に至っているとのことです。

そんな大事な財産が、どのようにして作られ守られてきたか調べてみました。私達の使っている水は、梓川の支流の黒川より取水しています。黒川の水は昔からどんな日照りの年でも、枯れることはないと言われてきました。江戸時代の安政6年に、上波田住民数名の有志により、松本藩の許可を得て、開削工事に着手しました。長い年月のなかで、工事担当は幾度か替わり、明治26年に初めて通水しました。それ以来、波田地区の水資源として大切に管理されてきました。重機も無い時代に、竜島の山中にある尾根を貫いて水路を作ることは、並み大抵の事業ではなかったと思います。

昭和42年に、建設省に慣行水利権の届けを完了し、そして昭和46年には、中信平農業水利事業にて本線を梓川より取水し、水路の整備も新しくなりました。

しかし依然として黒川の水は、一部を東電の発電所に流し、残りは男女沢より波田地区の水道水・生活用水として使われています。昭和45年には、県知事の許可を得て、再度水利権を確立しています。黒川の水は波田地区の大きな財産です。現在、黒川生活用水対策委員の人達が、水資源の管理をしています。

外国でも水の争いはあります。イスラエルとパレスチナの争いは、宗教が原因だけでなく、ヨルダン川の水利を国連が公平に分割しなかったため、イスラエルは農業も盛んで生活も潤い、パレスチナは荒地で飲み水にも困り、その反発が今も続いています。近隣では、朝日村を流れる鎖川の水利権が今井地区にあるため、朝日村では水を自由に使えません。

以上一部の事例ですが、私達は祖先の残してくれた大事な水資源を、これからも引続き守っていかなければならないと思います。

皆さん、健康管理はどのようにしていますか。私はこの一年、いろいろ患いました。年齢的なこともあるかもしれませんが、自身の健康管理の大切さを痛感しました。通院も非常に多く、かかりつけ医の他、皮膚科・歯科・耳鼻咽喉科・内科・整形外科・整骨院と多岐にわたりました。皮膚科では、膿んでしまったところの治療でした。ここ数年、ここまで悪化したことが無かったため、非常に辛かったです。

それよりも一番辛かったのは、腰痛で整形外科に通院したことです。車を運転できないほどの痛みでしたので、寝たままの状態で家族に連れて行ってもらいました。会社も5日間休んでしまいました。これを機に、正しい姿勢で腰痛を直す椅子を購入し、基本から腰痛対策を実施中です。

執筆時はインフルエンザが猛威を奮って受験生を脅かしている時期でしたが、この号が手元に届く頃には、落ち着いていることと思います。皆さんが健康であることを切に願います。